



# 幼稚園教員 賃下げ条例案を否決

2026年5月18日(月)、大津市議会本会議が開かれ、継続審査となっていた「大津市幼稚園教員の賃下げ条例案」が賛成少数(議長除く37名中賛成6名)で否決されました。

### 大幅な賃下げ 幼児教育の質にかかわる問題

市の市教組に対する提案は幼稚園教員の大幅な賃下げです。2月本会議での一般質問で執行部検証済の資料で示した通り、最速昇任のケースで、定年までの現行と比して、退職金は含まず単純計算で約473万円の減収、さらに一般教員のままだと、毎年の賞与と退職金を含まず780万円を超える減収です。まさに人生設計の破壊です。

物価が高騰している中、収入の低下は生活の悪化となり、労働に対する意欲や幼児教育の質の低下につながりかねないと危惧されます。

議案第30号														
議員総数 37人												賛成 6人		
井元 潔	田中 康博	森川 まゆみ										中川 つや	寺谷 吉登	原田 優太
細川 力男	安野 靖七	寺田 美幸	栗月 陽	福永 美晶	森脇 謙一	出町 明美						小島 義雄	杉本 幸子	林 まり
笠谷 洋佑	細川 俊行	川口 正徳		中田 一子	改田 勝彦	谷 祐治						日隈 慈	田中 知久	杉浦 智子
幸光 正嗣	八田 蓮児	竹内 照夫	竹内 基二	青山 三郎	伴 孝昭	浜奥 修利	佐藤 弘					高田 修平	草川 肇	奥村 功
														船本 力

賃下げ条例賛成少数で否決を示す議会表示板 ↑

### 少数から市民の声で多数へ

中川つやは、賃下げが議案として提出される以前の昨年11月議会から議案となった2月議会と、一貫して反対の立場で質問・追及してきました。初めて質問・追及した11月議会では反対の議員は少数でした。市が議案をつくる際に職員の処遇について労使合意のもとで行われるように決議を提案し(幼稚園教員の給与制度見直しにあたっては、管理職に限らず、現在大津市立幼稚園に勤務する全ての幼稚園教員の処遇の低下につながらないようにすることを求める決議)、議員の賛同を求めましたが、その際は、残念ながら賛成14人で否決されました。

しかし、その後、幼稚園の教員や保護者、市内・全国の市民の皆様の「賃下げはありえない、幼児教育の質にかかわる問題」という大きな声と反対の取り組みが市議会を動かし反対意見を多数に変え議案を否決に追い込むことができました。

議員定数の問題などを別にして、市長が提案した一般議案が否決されたのは近年では思い当たりません。大津市政のうえでも特筆されるべき出来事です。



中川つやの反対討論(5/18)

### ここからスタート 新規採用配置ゼロ 再編統合... 一人ひとりを大切にする幼児教育・保育の確立を



議案は否決されましたが、ここからスタートです。大津市は、給料表を一本化できなければ今年4月から行われている幼稚園への新規採用者の配属はしないという「方針」を、変えるつもりはないようです。これは「差別的・報復的な人事方針」であり、行き届いた幼児教育のためにも、今後、議会の場でしっかりと追及し是正させねばなりません。

また、市は「教育保育職」での保育士に合わせる給料表の統一が、待機児童対策で柔軟な配置を行うためと言いますが、今、公立28園の幼稚園教員はギリギリで、保育主任(=教頭)がクラス担任を持たなければ運営ができない園がいくつも出ています。こんな状態で、幼稚園教員を保育園に異動させることは不可能です。待機児童対策としての現状での「教育保育職」は機能しません。

さらには、今後10年かけて現行の公立幼稚園28園を17園に再編統合する案には、すでに多くの市民・保護者から異論が続出しています。

幼稚園教員の処遇を低下させず、保育士の処遇改善をするとともに、少子化だからこそ、一人ひとりを大切にする幼児教育・保育のあり方を確立していくために、現場の職員さんや市民の皆さんと連携し、取り組みを進めていきます。